



人権作文の部（小学生）最優秀賞 中沖小学校6年 櫻井 なるみさん

『「ボランティア」自分にできること』



みなさんは、ノーマライゼーションという言葉を知っていますか。私は、先生から聞くまでは全く知りませんでした。健常者と障害者とはお互いが特別に区別されることなく、社会生活を共にするのが当たり前のことであり、望ましい姿であるという考え方だそうです。私は、どうしても障害のある人を区別してしまいます。本当はいけないことですが、やっぱりかわいそうだなと思ってしまうんです。ですが、あるボランティアに参加して気持ちが変わりました。

わたしは、十月十一日に社会福祉施設の運動会にボランティアで参加しました。中沖小学校から、五・六年生十一名で参加しました。その日は、台風十九号のえいきょうで風が強く、中止になるのではと思ったのですが、実施するというのでした。八時半に本部席の近くに集合すると、もう園の人たちがならんで入場を待っていました。そこで働いている方も忙しそうに準備していらっしやいました。

いよいよ、運動会が始まり、私はゴールテープの係をすることになりました。先生が、「自分たちの運動会みたいに、出場する人たちは、これまで練習をがんばってきたんだから、それに応えられるように、運動会を盛り上げようね。」とおっしゃいました。私は精一杯がんばろうと思いました。ピストルがパンと鳴り、七人の人が走ってきました。ゴールを待たず、次から次にピストルが鳴り走ってきます。必死でテ

ープを持ちました。一番の人だけは、テープを切らせてあげたいので、ありえないぐらいの速さでテープを張りました。それよりもびっくりしたのは、園の人たちがみんな足が速いことです。本当に障害があるのかなと思うくらいでした。

次は、グラウンドの中央でより短いきょうを走る短きより走です。私は真ん中のゴールの場所に行きました。さっきの人たちとはちがって、重い障害のある人たちです。早くは走れません。足がゆらゆらしてまっすぐに走れない人もいます。それでも、ゴールを目指して一生けん命走っていました。全力で走っているのは、私たちといっしょです。心の中で強く「がんばれ」と応援しました。

集団演技もありました。みんなで一つのものを作りあげるの大変だっただろうなと思いました。自分たちも運動会の応えん団でダンスをするのになかなかそろわず、とても大変だったからです。すごく練習したんだろうなと思わず大きな拍手をおくりました。

人権標語の部（中学生）最優秀賞

- 『「大丈夫？」 その一言が 心のライト』
- 『思いやり その種まくのは 私たち』
- 『勇気出せ あなたの言葉 友救う』

- 大崎中学校1年 下井倉 諄施さん
- 大崎中学校2年 楠原 大輝さん
- 大崎中学校3年 山村 拓郎さん



米良美一さんの講演



人権作文および標語最優秀作品表彰



オープニング



人権に関する取組の発表



大勢の方々が来場されました！